



威勢のいい掛け声が響く

松浦魚市場初競り

日本有数のアジ・サバの水揚量を誇る松浦魚市場で1月6日、今年最初の取り引きとなる初競りが行われました。

この日は、約4トが入荷。午前5時の1番競りから競り人と仲買人らの威勢のよい掛け声が市場内に響きわたり、水揚げされた新鮮なアジやサバなどが次々と競り落とされました。

また、その後の仕事始め式では、市場関係者が操業の安全と大漁、商売繁盛を願いました。



鬼火を囲み無病息災を祈願

鬼火たき

毎年恒例の鬼火たきが市内各地で行われました。

鬼火たきは、しめ縄や門松に火を放ち、1年間の無病息災や家内安全などを祈願するものです。

久保川志丸さん（調川・松山田）が昨年12月に完成させた高さ約6.5m、幅5mの四角すいの大きな鬼小屋は、年末年始には地域の憩いの場にもなりました。

1月7日、たくさんのしめ縄や門松などが持ち寄られた鬼小屋に、久保川さんが火を放つと勢いよく燃え上がり、竹のはぜる音が響きました。集まった地区の住民たちは、大きな炎を見上げて無病息災などを祈願しました。



市内小学生が北海道鷹栖町を訪問

ホークス交流事業

1月4日から8日までの5日間、市内小学校の児童6人が鷹栖町を訪問しました。

この事業は、気候、風土、生活習慣などが異なる地域での生活体験や交流を通して、郷土愛や広い視野をもつ青少年を育成することを目的に実施されています。

今回は、磯田侗志さん、久保川諒人さん、田崎哲平さん、松園愛里さん、宮本真希さん、望月淳ノ介さんが参加しました。

鷹栖町では、ホームステイや雪中交流会、スキー体験などを通して鷹栖町の皆さんと交流を深めました。



子どもたちが受け継ぐ伝統行事

星鹿地区もぐら打ち

星鹿地区で家内安全や無病息災などを祈願する新春の伝統行事「もぐら打ち」が1月6日に行われました。

この日は、小中学生11人が集まり、地区内の約100戸を2班に分かれて回りました。語り継がれているもぐら打ちの掛け声（唄）は地域ごとに微妙に異なるそうですが、子どもたちは、「祝いましょう、祝いましょう、祝のモチをくれたなら、末も繁盛で世もよかる…」と大きな掛け声を掛けながら、新わらで作った約80cmの「もぐら打ち棒」で、玄関の床を力強くたたきました。「パンッ」という心地よい音と子どもたちの声がまちに響いていました。



新春の決意を新たに

武道始め式

平成30年松浦市武道始め式が1月8日、武道館で開催されました。

新春の決意を新たにし、武道の繁栄と青少年の健全育成を目的に行われています。

式には、柔道・空手道・剣道・国際空手道・武術太極拳・少林寺拳法・なぎなたの7競技から選手や指導者など約70人が参加し、競技ごとに気迫のこもった演武が披露されました。

参加者を代表し、少林寺拳法の松尾至恩しおんさんが、「練習を重ね、心身を磨き、もっと強くなれるよう精進します」と新年の抱負を述べました。



後世に伝えたい伝統行事

上志佐小学校もぐら打ち体験

お正月の伝統行事である「もぐら打ち」の体験が1月10日、上志佐小学校で行われました。

この体験学習は、大畑利治さん(志佐・横辺田)が子どもたちに昔ながらの伝統行事を体験してもらい、後世へ伝えてほしいとの思いから毎年開催されています。

この日は、同小学校の1・2年生9人がもぐら打ちを体験。「14日のもぐら打ち、もちやらんもんはよくしあんぼう」と教わった囃し言葉を口ずさみながら地面をたたきました。

2年生から、「2回目なのでたたき方がうまくなっていた」「教えてもらったたたき方がよくわかった」「もぐら打ちの意味を知ることができた」と感想が述べられ、みんなで大畑さんへ感謝のことはを伝えました。



防火・防災への気持ちを新たに

消防出初式

松浦市消防団(志水正信まさのぶ団長)の消防出初式が1月7日、文化会館などで開催されました。

式典には、市内の消防団員など約650人が参加し、消防協力者や退団者への感謝状の贈呈、永年勤続者への表彰が行われました。

志水団長は、「消防団は、「自らの地域は自らで守る」という「自発的義勇の精神」のもと、火災や災害から市民の生命、財産を守るため日夜努力しています。地域防災の要として一層の努力を期待します」と訓辞しました。

式典後の市中分列行進では、団員たちが中央公園から庄野橋まで行進した後、消防車両14台で一斉放水を行い、今年1年の防火・防災への意識を新たにしました。



今年は8本命中！良い1年に

百手講

百手講が1月8日、志佐町庄野地区の王嶋神社で行われました。

この行事は、的に当たった矢の数で今年の豊凶を占うもので、市の無形民俗文化財に指定されています。

今年の射手は、守山清和さんと松永偉人たけひとさんが務めました。烏帽子えぼしと狩衣姿かりぎぬで約10m離れた場所から直径約50mmの的をめがけてそれぞれ25本ずつ矢を放ち、見事8本命中させました。

地区の住民たちが見守る中、手製の弓矢に苦戦しながらも力強い射を見せる2人に、1射ごとに大きな歓声と拍手があげられました。

